

## こころとからだのしくみⅡ

担当教員 吉岡 久美、石本 淳也、小阪 勝己

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

## 【授業の展開計画】

1. 人体の構造と機能の基本を知り、障害や認知症を理解し、さまざまな生活機能低下における生活行動への影響を理解する。：吉岡
2. 入浴に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響：小阪
3. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす入浴行動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携：小阪
4. 入浴に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
5. 清潔に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響：吉岡
6. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす清潔への影響と、生活場面における変化の気づきと連携：小阪
7. 清潔に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
8. 睡眠に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響：吉岡
9. 身体や認知機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響と、生活場面での気づきと連携：小阪
10. 睡眠に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
11. 終末期とはなにか、法的な死について理解する。：石本
12. 死をむかえるまでの身体的変化、受容プロセスとこころの変化：吉岡
13. ターミナルケアにおける介護の役割と家族支援：小阪
14. グリーフケアの理解：吉岡
15. まとめ（生活に欠かせない行動に影響する身体機能低下や心理的变化、障害、認知症を含めた高齢者の特徴について振り返る。また、誰もが迎える死についての死生観を考える。）：吉岡

## 【履修上の注意事項】

事前学習として、講義で示している単元のテキストを読むこと。  
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。  
授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。  
積極的に参加し、自らの考えを伝え、支援の方向性を見出すこと。

## 【評価方法】

原則として筆記試験（60%）、積極性及び小レポート（40%）を評価の対象とする。

## 【テキスト】

最新介護福祉全書 「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社

## 【参考文献】

介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ」中央法規